

目的 家政学の体系確立をはかるためには、哲学を据えねばならない。現家政学界においては散見的に哲学の必要等によれているが、家政哲学としての研究は未だ見ない。演者は家政学に哲学を求めつゝ、『試論、家政学の体系構造について』の研究をすすめたが、それらを基本としてさらに家政哲学の領域を構成し、家政学の本質究明をはかり、学の樹立に寄与したい。

方法 1、人間を凝視しつゝ、さまざまな人間模様を描き出す文学の領域から、現代の家族、家庭の様相を先見的に求めて、家庭の今日的状況を提示して問題の所在と意味を論ずる。2、「人間とその家」についての哲学者のボルノエの思想に基づき、家政哲学の中心的論及をすすめる。3、家庭における育児について、その本質的意味をプラトンの思想により論じ、家の人間学的意義を明らかにする。4、家政学の現状をその内部より哲学的思考を以て照射し、各領域学について「人間守護の学」としての意味と位置を明確にし、家政学の独自性を顕現させる。5、人間生活の現況より家政学の対象を家庭内のみにとどめず、社会との関係、特に政治との関係づけを行い、その哲学的論拠を立証する。以上5分野よりの学際的研究方法による。

結果 あるべき家庭、あらしめたい生活こそ家政学の究極の目標であらねばならない。こゝに家政学の独自性があり、且つ広領域の家政学の体系も自ら確立する。すなわち、家政哲学を据えて、人間生活の学として見るとき、並列的の領域学の位置も、意味も判然とする。